

影珈琲

ナカムラクニオ



「影、買いませんか？」

水上ビルの喫茶店で、メガネをかけた美しい女に話しかけられた。
小林という名の女は背が高く、透き通るような白い肌をしていた。

「買います」と僕は即答した。

ちようど身体が影をもとめていた。

「いくらですか？」

「一万円ポッキリです」

それが高いか安いかは、問題ではない。今すぐ買うべきなのだと思った。

「光を浴びすぎた方にオススメです。あなたに適正な影を補充する装置だと考えて下さい」

さっそく、影を使ってみた。

正確に言うと、影の中に入ってみた。

まるで窓のない部屋のような暗闇だった。

僕は、十年以上忘れていた安らかな眠りを手に入れ、大満足だった。
この安らぎが、一万円なら安いもんだ。

しかし、影を売るなんて、なぜ誰も考えなかったんだろう。

その女は別れ際に「珈琲だって実は、影を焙煎しているんです」と教えてくれた。

僕は、さっそく豊橋のまちなかで集めた新鮮な影をフライパンで焙煎してみた。

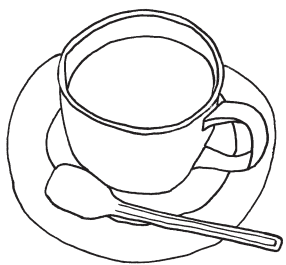
香ばしく、とろけるような「影珈琲」が出来た。

僕は、世界中の影という影を集めた。

そして、その影を焙煎して珈琲をつくることにした。

きっと成功するだろう。

こんなにも世界は光で溢れてしまったのだから。



おわりに

小説の舞台となった水上ビルは、駅前で青空市場を営んでいた商店主たちが牟呂用水の上にビルを建て、そのビルに移り住んだことがその起源となっています。「水上ビル」商店街は、川の上に全長80メートルもの大規模なビルが建つという全国的にも珍しいその成り立ちと、多様な店舗が集積していたことから、当時かなりの賑わいを見せていました。近年の水上ビルは、老朽化もなんのその、個性ある老舗が残る一方、店を畳んで店舗を貸し出したところもあり、古いものと新しいものが混在する妙味を生み出しています。

豊橋市は、このユニークな歴史の「水上ビル」商店街に隣接して

建てられる再開発ビルの中に、まちなか図書館を整備することを決定し、平成33年度の開館を目指しています。

まちなか図書館は、地域の人に愛され、利用され、地域文化を創造し、まちづくりに繋げることを方針に掲げています。

本冊子に収められている小説は、まちなか図書館の開館前のプレ事業として開催したワークショップの参加者によって執筆され、実際に水上ビルを探访して浮かんだイメージを題材としています。水上ビル界隈の独特の雰囲気を感じながら小説を楽しみ、現地を訪れ、五感で本と町を冒険してみたいかがでしょうか。

白い肌の、メガネをかけた女



小説の舞台になった「水上ビル」
水路の上に誕生して 50 余年。

牟呂用水を塞ぎ、約 800 メートルにわたって築かれた
鉄筋コンクリート造のビルの連なり。水上ビルの愛称で
親しまれるビル群は、昭和 39 年から 40 年代初頭にかけて
次々と建造された。

土地のないところに建物をつくるという奇想天外な発想は、
いまなら到底建築許可が下りるはずもないが、
戦後復興期の超法規的措置によって
奇跡のように実現し、現代に残っている。



ブックトープ豊橋

まちじゅう図書館プロジェクト

2018年3月 発行

編集 ナカムラクニオ

デザイン 高橋めぐみ

イラスト 田村浩子

発行 豊橋市都市計画部まちなか図書館整備推進室・教育部図書館

問合せ 豊橋市都市計画部まちなか図書館整備推進室

〒440-0897

愛知県豊橋市松葉町2丁目10番地

TEL 0532-55-8102

machitosho@city.toyohashi.lg.jp